

平成27年度

京都府学力診断テスト（中学2年生）の結果の概要について

平成27年 12月 17日
学 校 教 育 課

- 1 実施日 平成27年10月21日（水）
- 2 実施対象 府内中学校（95校）特別支援学校（3校）
- 3 実施教科及び受検者数 国語 10,012人 数学 10,012人 英語 10,016人
- 4 問題内容及び問題数
 - (1) 基礎・基本に関する問題・・・20問
 - (2) 活用に関する問題・・・5問
 - (3) 質問紙調査・・・45問（学校独自に設定できる質問2問を含む）

平成27年度京都府学力診断テスト（中学2年生）を実施しました。学力調査と質問紙調査の結果について概要をお知らせします。

■全体的な学力は、ほぼ定着している。

- ・国語 ◆「話すこと・聞くこと」の領域は、定着しており、「読むこと」及び「言語事項」の領域はほぼ定着している。
◆「書くこと」の領域に一部課題がある。
- ・数学 ◆「数と式」の領域は定着しており、「関数」の領域は、ほぼ定着している。
◆「図形」と「資料の活用」の領域に一部課題がある。
- ・英語 ◆「聞くこと」の領域は、定着している。
◆「読むこと」と「書くこと」の領域は、ほぼ定着している。

■「教科の勉強が好き」な生徒の割合が、国語、数学、英語ともに増加した。

教科の勉強が好きかという質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒を合わせると、昨年度よりも国語は7.5ポイント増加し59.0%に、数学は1.9ポイント増加し53.5%に、英語は3.0ポイント増加し59.2%にそれぞれ増加した。

■家庭での学習習慣の定着については、依然課題がある。

平日の家庭での学習時間については、2時間以上の生徒の割合が昨年度よりも0.1ポイント増加したが、30分未満の生徒の割合は4.0ポイント増加した。本調査に回答した生徒の中学1年生4月の時点と比べると2時間以上の生徒の割合は1.2ポイント増加したが、30分未満の生徒が14.9ポイント増加しており、依然課題がある。（なお今年度から、より詳細に状況を把握するため、選択肢に「全くしなかった」を追加した。）

■規範意識や自尊意識については、やや改善傾向が見られる。

「学校や社会のきまりや規則を守っている」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は51.4%で、昨年度より5.7ポイント、25年度より10.7ポイント増加した。

「自分には、よいところがあると思う」の質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合を合わせると59.4%で、昨年度より0.3ポイント、25年度より3.4ポイント増加した。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は、昨年度より10.5ポイント、25年度より12.3ポイント増加した。

■携帯電話やスマートフォンで通話やメール、ゲーム等を毎日2時間以上する生徒が多い。

自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合は66.3%であり増加し続けている。今年度は、携帯電話やスマホの使用状況についての質問を追加したが、携帯電話やスマホで通話やメール、インターネットを1日当たり2時間以上している生徒の割合は30.7%、コンピュータゲーム、携帯電話やスマホ等を使ったゲームを1日当たり2時間以上している生徒は37.6%という結果であった。

担当課	学校教育課
電 話	075-414-5831

改善プラン ～指導を強化する事項～

府学力診断テストや全国学力・学習状況調査の結果分析を活かした教育活動を展開し、質の高い学力をはぐくむ

□ 児童生徒の学ぶ意欲を引き出し、個に応じた指導の一層の充実を図る等の授業改善を進める。

- ・ 質問紙調査結果を児童生徒の学力と関連付けて分析し、学ぶ意欲を引き出す授業をするとともに、「子どものための京都式少人数教育」の更なる充実を図り、児童生徒一人一人に応じた指導の一層の充実を図る等、組織的な指導方法の工夫改善に取り組む。
- ・ 思考力・判断力・表現力等をはぐくむために授業に言語活動を効果的に位置付け、課題の発見、解決に向けた主体的・協働的な学びを充実させる。

◆「指導方法の改善に関する研究協議会」「中学校教育課程京都府研究大会」「京都府学力診断テスト活用講座」を実施

□ 児童生徒の学力向上を小中連携の視点で捉え、9年間を見通した指導を行う。

- ・ 京都府学力診断テスト(小4・中1・中2)及び全国学力・学習状況調査(小6・中3)の結果から、児童生徒の学力実態や家庭における生活状況等の特徴や課題を把握し、小中で課題を共有し、小中連携の視点で組織的に学力向上に取り組む。

□ 家庭学習の一層の定着を図る。

- ・ 予習・復習を中心とした主体的な学習習慣を身に付ける取組を小中連携の視点で捉え、充実させていく。
- ・ 基本的な生活習慣の確立や学習習慣を身に付ける取組を家庭(保護者)と連携して、さらに充実させていく。

◆「保護者のみなさんとともに～全国学力・学習状況調査 質問紙調査の結果から～」リーフレットの配布

□ 規範意識や豊かな人間性をはぐくむために、「道徳の時間」の充実や「法やルールに関する教育」を進める。

◆「道徳教育の進め方 京都式ハンドブック」「『法やルールに関する教育』ハンドブック」の活用

□ 自尊感情を高める指導の充実

- ・ 授業を初め学校生活全体をとおして努力の事実を評価し、周囲からの温かい愛情や信頼、期待を感じさせることにより、「包み込まれているという感覚」をはぐくみ、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。

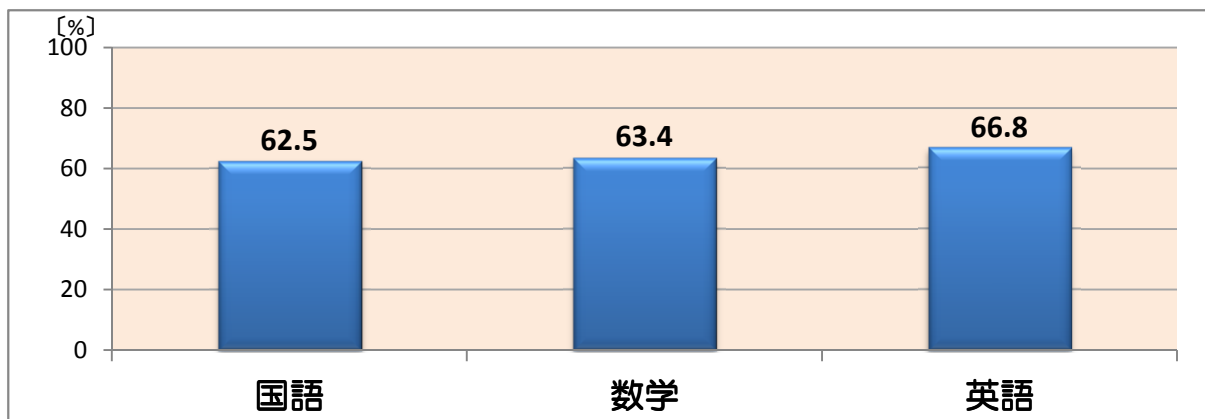
□ スマートフォンをはじめとする携帯電話に潜む危険性や家庭でのルール・使い方等について保護者への啓発を進める。

◆「保護者のみなさまへ 家庭で話そう! ～ケータイ利用のルールとマナーについて～」リーフレットの配布

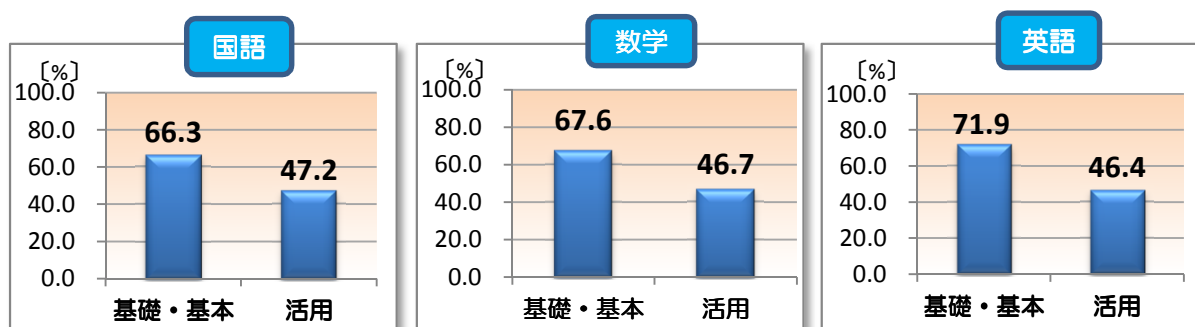
5 結果の状況（京都府全体）

(1) 教科別

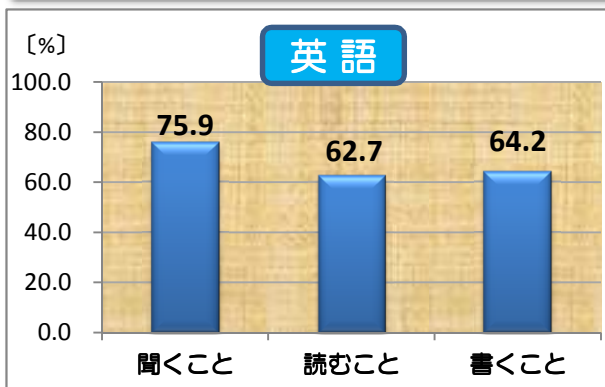
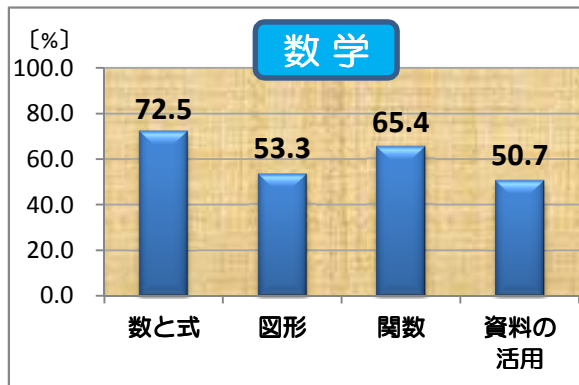
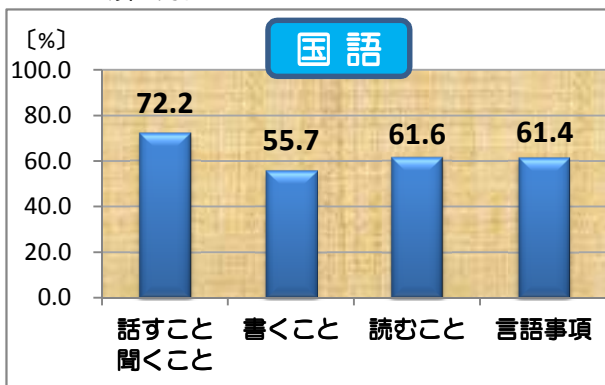
※数値はすべて正答率（100%）



(2) 問題類型別（基礎・基本に関する問題 活用に関する問題）



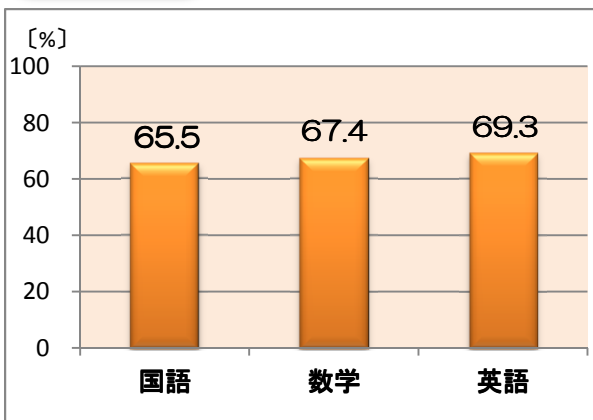
(3) 領域別



(4) 教育局別平均正答率

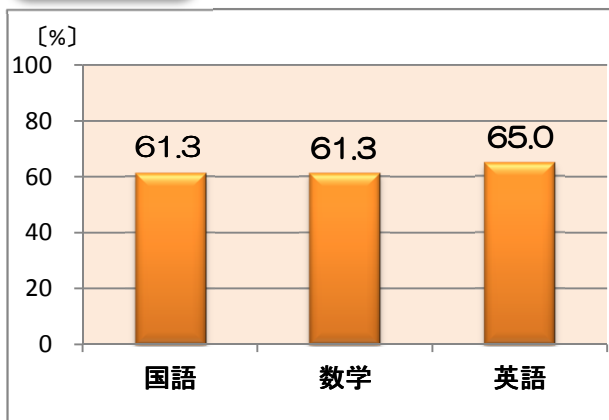
**乙訓
(8校)**

国語 (1,250人 12.5%)
 数学 (1,249人 12.5%)
 英語 (1,249人 12.5%)



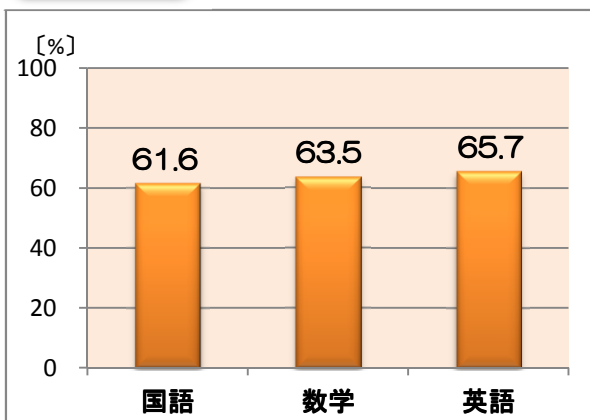
**山城
(35校)**

国語 (4,796人 47.9%)
 数学 (4,797人 47.9%)
 英語 (4,801人 47.9%)



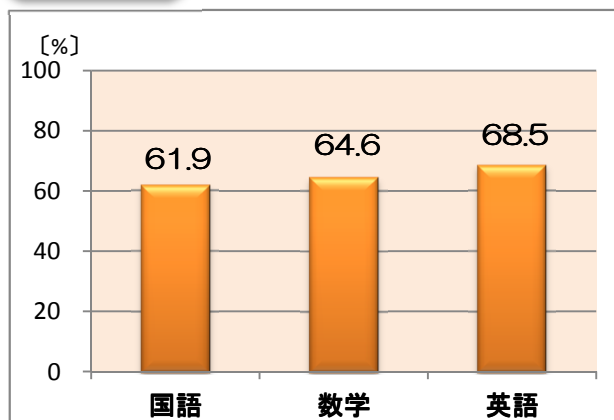
**南丹
(15校)**

国語 (1,174人 11.7%)
 数学 (1,174人 11.7%)
 英語 (1,174人 11.7%)



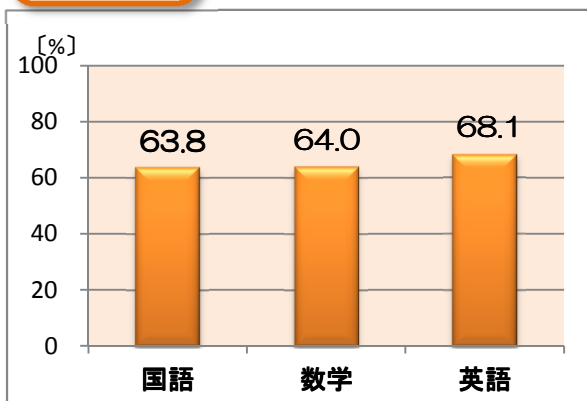
**中丹
(22校)**

国語 (1,806人 18.0%)
 数学 (1,807人 18.0%)
 英語 (1,808人 18.0%)



**丹後
(13校)**

国語 (855人 8.5%)
 数学 (854人 8.5%)
 英語 (853人 8.5%)



()は、
 (受検者数 府全体の受検者数に占める割合)を表す。